

凡例

本文中の表記

タミル語においては文字で書かれる言葉（書き言葉）と実際の会話で使われる言葉（話し言葉）の発音がしばしば異なります。例えば、「名前」という意味のタミル語は பெயர் peyar と表記され、文字どおりに読めばペヤルとなりますが、実際の会話ではペヤルではなくペールと発音されます。

このような特質がタミル語にあるため本書では、①タミル語文字、②ローマ字、③カタカナという三つの表記法で本文中の例文と語彙を提示しています。

タミル語文字とローマ字の表記は<書き言葉のタミル語>を記したものです。なお、タミル語の日常会話では英語からの借用語が頻繁に使われます。例文で借用語が使用される場合は、ローマ字表記の（ ）内に元の英単語を記しました。

カタカナによる表記は、該当の例文や単語がどのように実際の日常会話で発音されるかという<話し言葉のタミル語>を紹介したものです。学習時間が限られ、すぐにタミル語を使いたいという方はこちらのカタカナ表記による例文と単語をご参照ください。ただし、このカタカナ表記において問題となるのは、タミル語には日本語にない発音があり、タミル語の発音を厳密にカタカナで表記するのは不可能であることです。さらに話し言葉の場合、地域によって、また話者が属すコミュニティによっても発音が異なってきます。そのため、本書におけるカタカナ表記はあくまでも<発音の目安>であることをご諒解ください。

例文の和訳

タミル語の文章における語順は日本語に近似します。例えば、

நான்	காப்பி	குடித்தேன்.
nān	kāppi	kuḍittēn
ナーン	カービ	クディッチェーン
私は	コーヒーを	飲みました。

という文章においてそれぞれの単語の意味は、நான் nān（ナーン）が「私」、காப்பி kāppi（カービ）は「コーヒー」、குடித்தேன் kuḍittēn（クディッチェーン）は「（私は）飲みました」となります。

このタミル語と日本語の類似性を有効に活かせるように本書では、提示した例文の各語の下にそれぞれの語の意味を対応させて和訳をつけました。

一方、日本語とタミル語には相違点もあります。その代表的なものが、タミル語では日本語の「です／だ」にあたる語（コピュラ）を伴わずに文章が成立することです。

例えば、「これは何ですか？」という意味のタミル語は、

இது	என்ன?
idu	enna
イドゥ	エンナ
これは	何？

という二つの単語だけで述べられます。

この場合、本書では「これは何 [ですか] ?」というように、原文にない日本語を [] 内に補いつつ和訳を提示しました。また、タミル語の慣用的な文章では単語の意味を連結するだけでは理解できないものがあります。そのような場合も和訳の [] 内に補足しました。例文の注記にも説明がありますので参照ください。

動詞の表記

本書で動詞を紹介する際、特に説明がない場合は不定形、続いて（ ）内に語幹と過去分詞、最後に日本語の意味が提示してあります。例えば、

குடிக்க kuḍikka (குடி kuḍi, குடித்து kuḍittu)=飲む

という動詞の場合、குடிக்க kuḍikka（クディッカ）は不定形、குடி kuḍi（クディ）は語幹、குடித்து kuḍittu（クディッチュ）は過去分詞になります。

タミル語の文字と発音

現在、日常生活で使われるタミル語の文字は、母音が12個、子音が24個あります。それぞれの文字、本書におけるローマ字表記、そして発音は以下のとおりです。

【母音】

அ	a	[ア]	ஆ	ā	[アー]
இ	i	[イ]	ஈ	ī	[イー]
உ	u	[ウ]	ஊ	ū	[ウー]
எ	e	[エ]	ஏ	ē	[エー]
ஐ	ai	[アイ]			
ஓ	o	[オ]	ஔ	ō	[オー]
ஔ	au	[アウ]			

【子音】

次に紹介する24個の子音は1文字 ஸ்ரீ śrī (シュリー)を除きそれぞれの文字の上部に புள்ளி pulḷi (プツリ)と呼ばれる点が付されています。この点は該当の文字が母音を伴わず単独の子音として発音される際に付される印です。以下、[] 内には該当の子音に短母音 a (ア) を接続した発音での説明が提示してあります。なお、カタカナ表記のみで何も解説がない場合は、表示された日本語の文字に近い発音になります。詳しくは後述の「混乱しやす発音」を参照ください。

க	k / g / h	[カ、ガ、あるいはハ]
ங	ṅ	[多くの場合、子音 ன் ṅ として用いられる。軟口蓋鼻音。例えば「おんがく(音楽)」の「ん」のように、日本語でカ行、ガ行の音に先行すると同じ発音]
ச	s / ch / j	[サ、シャ、チャ、あるいはジャ]

நீ	ñ	[ニャ]
ட	t / d	[舌尖を硬口蓋に触れて発音するタ、あるいはダ]
ண	ṇ	[舌尖を硬口蓋に触れて発音するナ]
த	t / d	[舌尖を上歯に触れて発音するタ、あるいはダ]
ந	n	[舌尖を上歯に触れて発音するナ]
ப	p / b	[パ、あるいはバ]
ம	m	[マ]
ய	y	[ヤ]
ர	r	[ラ]
ல	l	[舌尖が上歯の根元に触れ、舌の両側から空気が流れて発音するラ]
வ	v	[ワ、あるいはヴァ]
ழ	ḷ	[舌尖が硬口蓋の近くまでくよう舌を丸めて発音するラ (舌尖は口蓋に触れない)]
ள்	ḷ	[舌尖を硬口蓋に触れて発音するラ]
ற்	r̥	[舌尖を上歯の歯茎付近で振動させるラ]
ன்	ṅ	[舌尖を上歯の歯茎に触れて発音するナ]

以下の六つの子音は、サンスクリット語、英語などからの借用語を示す時に使われる文字です。

ஜ	j	[ジャ]
ஸ்ரீ	śrī	[シュリー]
ஷ	ṣ	[シャ]
ஸ	s	[サ]
ஹ	h	[ハ]
கஷ	kṣ	[クシャ]

【子音+母音】

子音に母音が続く場合は子音の文字の横や上、あるいは下に母音を表わすマークが付きまます。例えば ā (アー) は ऀ, i (イ) は ि などのです。

[例]		
ம	[ā]	m
ம	[i]	ma mā
ம	[ai]	mā mā

மி	[மி]	mi	ミ
மீ	[மீ]	mī	ミー
மு		mu	ム
மூ		mū	ムー
மே	[மே]	me	メ
மே	[மே]	mē	メー
மை	[மை]	mai	マイ
மொ	[மொ]	mo	モ
மோ	[மோ]	mō	モー
மொள	[மொள]	mau	マウ

(*)子音+ u(ウ)の文字と、子音+ ū(ウー)は子音によって形が異なります。

詳しくは「タミル語文字一覧」を参照ください。

【混乱しやすい発音】

タミル語には日本語や英語にない発音があります。

私たちの口、特に口の上部を注目してみると、上唇に続き、上歯、歯茎、そして骨質の硬い部分(硬口蓋)があります。タミル語の発音で重要なのは、舌先がこれらのどの箇所に位置するかということです。

以下、混乱しやすい発音を比較しながら、タミル語の発音についてさらに紹介(便宜上、子音+ a アの形で説明)します。

◎ 2種類の「タ」、あるいは「ダ」

ᱚ ᱦᱚᱴᱚᱨ ta / ᱦᱚᱴᱚᱨ ta / da はどちらもタあるいはダという音ですが、ᱦᱚᱴᱚᱨ ta / da は舌先を上歯に触れさせて発音するタあるいはダで、日本語のタ、ダに比較的近い音です。一方 ᱚ ᱦᱚᱴᱚᱨ ta / da は舌先を硬口蓋につけてタ、ダと発音します。なお、英語からの借用語でオリジナルの単語に th が含まれる場合(例えば、"bath" や "think" など)、th は 歯摩擦音 [θ] [ð] とは発音されず ᱦᱚᱴᱚᱨ ta / da で代用される傾向があります。

◎ 3種類の「ナ」

ᱦᱚᱴᱚᱨ na / ᱦᱚᱴᱚᱨ na / ᱦᱚᱴᱚᱨ na の3文字はいずれもナという音ですが、ᱦᱚᱴᱚᱨ na は舌先が上の歯、ᱦᱚᱴᱚᱨ na は舌先が上の歯茎、ᱦᱚᱴᱚᱨ na は舌先が硬口蓋というように舌先の位置によりナ音が微妙に変化します。なお、語頭に来るナは ᱦᱚᱴᱚᱨ na のみで、ᱦᱚᱴᱚᱨ na や ᱦᱚᱴᱚᱨ na が語頭に来ることはありません。

◎ 5種類の「ラ」

日本人にとってタミル語の発音で最も困難なのは多彩なラ音です。実に五つもの異なるラの音がタミル語にはあります。それぞれの違いは以下のとおりです。

なお本書で紹介する例文では、便宜上、いずれの音にもカタカナのラを使っています。ラがどのような発音であるかは対応するタミル語文字、あるいはローマ字表記を参考にしてください。

ர	ra	[舌先で上の歯茎よりやや内側を弾くラ。日本語のラに近い]
ல	la	[舌先を上歯の根元につけ、舌の両側から息が流れ発音されるラ(流音あるいは側面音)]
ழ	ᱚᱦᱚᱴᱚᱨ la	[舌先が口の奥(硬口蓋の位置)にくるように舌を丸めて発音するラ。ただし、舌先は口蓋に触れない]
ள	ᱚᱦᱚᱴᱚᱨ la	[舌先を硬口蓋に触れて発音するラ]
ற	ra	[舌先を上歯茎付近で振動させて発音するラ(日本語の「べらんめえ」調で使われるラ)]

◎ :.を伴う文字の発音

英語からの借用語を記す際、ᱚᱦᱚᱴᱚᱨ p / b に属す文字 ᱚᱦᱚᱴᱚᱨ pa / ba (パ/バ)、ᱚᱦᱚᱴᱚᱨ pi / bi (ピ/ビ)、ᱚᱦᱚᱴᱚᱨ pu / bu (プ/ブ) などの前に三つの点 :. (ஆய்தம் āydam アーイデン) を付すことがあります。その場合、ᱚᱦᱚᱴᱚᱨ p / b は [f] と発音されます。

:.பேன் fēṇ フェーン 扇風機(=fan)

:.பொட்டோ fōṭṭō フォーター 写真(=photo)

【連音(サンディ)】

複数の語が連続する際、特定の文字の組み合わせによって若干の発音の変化(連音:சந்தி sandi サンディ)が起こります。以下は代表的な発音の変化です。ただし、後続の語が英語などからの借用語の場合、サンディが起こらないこともあります。

① இ iイ, ஈ īイー, எ eエ, ஏ ēエー, ஐ ai アイで終わる語に、母音で始まる語や接辞が続く場合は ᱚᱦᱚᱴᱚᱨ y が挿入される。